

音楽の神様エルメート・パスコアルを訪ねて～その3

数ヶ月前にエルメート夫人のアリーニ・モレーナよりメールを頂いた。エルメートの新しいサイトができたとのことである。見ると本当にすばらしい内容のサイトとなっている。今まで公にされていなかったエルメートの昔の作品が紹介されていたり、エルメートのソロ、妻とのデュオ、グループ、オーケストラ、バンドなど、各活動形態によってサイトが分かれていたり、非常に興味深い内容になっている。そんなサイトを喜んで見ながら、彼との思い出話を中心に、つれづれなるままにいくつかエッセイをまとめた。ご笑覧いただけたら幸いである。

エルメートの新しいサイトは以下に記しておきますのでぜひアクセスしていただきたい。 <http://hermetopascoal.com.br/>

1 1 . Quarteto Novo の名曲 O ôvo の歌詞

ブラジル音楽史上最高のカルテットと言っても過言ではない、1960年代半ばに、エルメート・パスコアルやアイルト・モレイラたちによって結成された Quarteto Novo。彼らの唯一のアルバムの一曲目を飾る名曲、それが O ôvo である。冒頭にエルメートの軽快なフルートで始まり、神様の雄叫びも聞けるこの曲は、盲目のピアニスト、マンフレッド・フェスト率いる Manfredo Festo Trio にシングルとして採り上げられたり、ピアニスト、オズマール・ミリートの演奏レパートリーに入っているなど、多くのミュージシャンたちによって親しまれている、エルメート・パスコアルの代表曲である。因みに、タイトルは卵を意味する。

実のところこの曲が、後にエルメートによって歌詞が付け加えられたことは一般にはあまり知られていない。1997年にSESCから出されたCDの中でエルメート自身が解説し歌っているが、このCDの存在も同様に知られざる存在である。

2006年末に私が渡伯した折に、エルメートご夫妻は行きつけのクリチーバいちのシュハスカリーアに連れて行ってくださった。二人のことは店でも相当有名で、彼らが店に入るや、店員たちの一人ひとりが列を作り、彼らに敬意を込めて挨拶していたのが、今も印象に残っている。大好物の赤ワインを片手にシュハスコを楽しんでいたエルメートは上機嫌で、突如妻のアリーニと共にテーブルを叩きながら O ôvo を歌ってくれた。ここに彼らの歌ってくれた名曲 O ôvo の歌詞を紹介する。

卵 (作詞・作曲 エルメート・パスコアル)

わしは1ヶ月に100個の卵を産む鶏を飼っている。
けれども 理解できないことがある。
なぜ1度に3個産むのか？
わしの農場には5万羽の鶏がおった。
けれども お隣のマリキーニャに全てを売ってやった。
今では 産まれたての1羽のヒナだけになってしまった。
もう1度その卵1個と全てをやり直しじゃ。

O ôvo (Letra e Música Hermeto Pascoal)

Tenho uma galinha que põe 100 ôvo por mês.
Mas não consigo entender porque vem 3 de cada vez.

No meu quintal tinha 50.000 galinhas.
Vendi tudo para vizinha Mariquinha.
Agora só fiquei com 1 pintinho novo.
Comcecei tudo de novo com o ôvo.

12. 天才エルメート・パスコアルの曲作り

ブラジルを代表するマルチミュージシャンのエルメート。その彼は、本人いわく、「今までに4000曲は作った。」というほどに恐るべき作曲能力も併せ持っている。このことは、1999年に発表された、1996年7月23日から1997年7月22日までの1年間、毎日作曲してまとめた譜面集「音のカレンダー」からも見てとれよう。

2004年に来日し、京都でのライブが終わって退場する際に、何人かのファンの背中に即興で譜面を書いたり、気に入った料理店には譜面付きの曲をプレゼントするなど、驚くべき彼の才能を実際に目にした人も少なくないであろう。

私が渡伯した折も、即興で私に対して Viva o Japão~Música para Miti (ミチに捧げる曲、日本万歳) なる曲を作ってくれた。これは、決して忘れること

のできない一生の思い出となった。そんなエルメートに、曲作りについてきいてみたことがある。どうやらエルメートにとって曲作りは、ごくごく日常生活のごとく自然なことであり、特別なことではないようだ。また、印象的だったのが、「曲を作るときに先に曲名は決めない。つまり、人間の場合と一緒になんだ。人間は子どもが生まれてその子を見てから名前を授けるだろう？だからまだ名前をつけてない曲が山のようにあるんだ。」という話であった。ともあれ、4000を超える莫大な楽曲の父である偉大なエルメート・パスコアルは、ブラジル音楽界の父ともいえる存在である。

1 3. 前妻イルザに捧げた名曲 *Menina Ilza*

現在の妻アリーニ・モレーナとの歳の差は40歳以上。それを始めて聞いて驚いた人はあまたいたことだろう。「さすが天才のすることだ。」と納得した人も多いことかもしれない。

アリーニ・モレーナは、エルメートにとって二番目の妻ということになる。前妻の名前はイルザ・ダ・シルヴァ。イルザはエルメートにとって人生の全て、といっても過言ではないほど大きな存在であったようで、エルメートはイルザと1954年に結婚し、イルザが亡くなるまでの46年間人生を共に過ごした。彼女との間に6人の子を儲け、多くの孫たちにも恵まれている。そんなイルザは、家のこと一切を取り仕切っていたようで、エルメートは安心して全てをイルザ夫人に任せていたようだ。エルメートのイルザへの思いは、2004年の来日の際に東京、京都の両都市で演奏し、観客とともに熱唱した *Menina Ilza* からも感じとれる。この曲は本人名義のアルバムでの録音はないが、1977年にアメリカで出されたストーン・アライアンスによる「マルシオ・モンタローヨス」の中に収録されており、エルメート本人もピアノとフルートで演奏している。やがて、エルメート一家を悲劇が襲う。イルザ夫人の他界である。それは2000年のことであった。愛するイルザ夫人を失ったエルメートのショックは相当なものであったようで、一時はブラジルを離れてしばらくアメリカに住むことを決意したほどであった。現に、エルメートはかつてエルメートグループに所属していた弟子のジョビーノ・サントス・ネットに連絡をとり、シアトルの音楽大学で音楽を教えることを決めていたようだった。そんなエルメートのアメリカ行きを覆したのが、若きガウーシャ（ブラジル南部ヒオ・グランデ・ド・スール州の出身者）で歌手であるアリーニ・モレーナとの衝撃的な出会いであった。

14. 若き才女アリーニ・モレーナとの出会い

世界いちの鬼才とも言えるエルメート・パスコアルと結婚してしまう程の女性＝アリーニ・モレーナ。しかも40歳以上もの歳の差を乗り越えてである。これだけでも彼女が只者ではないことは想像できるであろう。いつだったか自分の生い立ちとエルメートとの出会いについて彼女が私に元気に語ってくれたことがある。

エルメートの現在の妻アリーニ・モレーナ（本名はアリーニ・パウラ・ニウソン）は1979年6月29日、ブラジル南部のヒオ・グランデ・ド・スール州のエリシンという町で生まれた。10歳の時に音楽を始め、教会などでも歌い始めていたという。そして同州のパッソ・フンド大学で声楽を学び、卒業後は地元で子どもたちに歌を教える傍ら、自らも歌を中心に音楽活動が続けていた。そんな彼女にとって、エルメートの音楽との衝撃的な出会いが2002年8月訪れた。彼女はこの時パラナ州クリチバにあるMPB専門学校で音楽を究めるために在学し、その町に住んでいた。そこでのエルメートのショーに感激した彼女は、またたくまにエルメートの音楽の虜となる。そしてその二ヵ月後の10月19日に、同州ロンドリーナで開催されたエルメートのワークショップで、エルメートのピアノをバックに”Montreux”を歌うというまたとない機会を得、エルメートにその才能を見出された彼女は、翌日の隣町マリンガーでのグループのショーにもゲスト参加。その後彼女は、一行と共にリオ・デ・ジャネイロに移り住む。この辺りの決断力の速さとフットワークの軽さが彼女のすごいところであると言えよう。リオに移り住んだ彼女は、この頃からエルメートの国内ツアーにもゲスト参加するようになる。同時にエルメートから歌、ピアノ、ギター、パーカッション、踊りなどの本格的な手ほどきを受け始める。そして二人のレパートリーが40曲を超えたころ、サンパウロでのショー“O Som Nosso de Cada Um”でデビューを飾る。二人の出会いから二年が経過した2004年のことであった。同年エルメートに伴い国外にも共にツアーに出て活動を展開し始める。そしてついに2005年には、二人の愛の結晶ともいえる念願のファーストアルバムとDVD「Chimarrão com Rapadura」をリリースすることとなったのである。

エルメートとその奥さんであるアリーニとの親交を深めながら私が常々感じるのは、妻アリーニのすばらしい人柄と行動力である。すこぶる明るく驚くほど聡明な性格の彼女のことをエルメートは心から尊敬、信頼しているし、行動するときはいつでもどこでも一緒である。シュハスコに言ってもエルメートのお皿は全てアリーニが盛り付けをするし、肉の焼け具合についてもアリーニがギャルソンに質問し、エルメートの皿に取る。まさに二人は以心伝心の関係

である。彼女は自分の父母の世代でもあるエルメートの娘たちとも対等に渡り会うし、エルメートの家族たちも彼女の存在を認めている。何事にも研究熱心な彼女はエルメートとの出会いによって数多くの楽器を演奏できるようになったし、現在も最強の夫とともに、日々宇宙に通じるユニヴァーサルな音楽を研究中である。詳しくは二人のDVDを見ていただきたい。尋常ではない彼女のすごさが映像で伝わってくるはずである。このエルメート初のDVD発売に到ったのもアリーニの強い要望があったからだそうである。最初DVD発売に消極的だったエルメートに対して、アリーニはDVD制作を強くすすめたと言う。エルメートも結果的にDVDを出せてよかった、と後で述べている。彼女は言う。「エルメートという名前が大好き。すごく音楽的な響きがするの。エルメートは一日中音楽のことを考えているわ。」そんな彼女には20代とは思えない風格さえ感じられる。

2000年に最愛の妻イルザを亡くしたエルメートは、その後新妻アリーニ・モレーナとともに新たな音楽の旅を続けている。

15. 国外でも高い評価を受けるエルメートの音楽

「現代のベートーベン」「音楽の神様」など様々な形で激賞される鬼才エルメート・パスコアル。彼の評価はブラジル本国以上にヨーロッパなど国外でのほうが高いのではないだろうか。いつのことだったか、ポルトガル語で書かれた資料を見ていたときに、「彼の偉大さにブラジル国民は本当の意味で気づいていない。ブラジル国民は、彼の死後に彼の偉大さを知ることになるだろう。」とあるジャーナリストが書いているのを見て、私は得心した。エルメートは、本国を離れ毎年のようにヨーロッパ各国のツアーを行っている。現在は、エルメートソロ、妻アリーニ・モレーナとのデュオ **Chimarrão com Rapadura**、エルメート・パスコアルとグループ、エルメート・パスコアルとシンフォニックオーケストラ、エルメート・パスコアルとビッグバンドといった、大きく分けて5つの形態で活動している。

以前、アリーニ・モレーナから、アルゼンチンにエルメートの曲だけを演奏するグループがあると聞いたことがある。そのグループの名前は **BANDA HÉRMETICA** といい、2003年にブエノスアイレスでベーシストの **Marcos Archetti** を中心に結成された9人編成のバンドである。ライブにもエルメートがゲスト参加をしたことがあるようで、エルメート本人も彼らの音楽性を認めているようだ。2006年6月にはエルメートの「音のカレンダー」から曲をいくつか取り上げ演奏したCD「**el calendario de los sonidos**」がリリースされているので、興味のある方にはぜひとも聞いていただきたい。ご存知の方もお

られると思うが、エルメートの一番弟子ともいえる長年エルメートのグループで演奏してきたベーシスト、イチベレー率いるオーケストラによる傑作「Calendário do som」と聞き比べてみるのもファンの楽しみといえるかもしれない。参考までに BANDA HÉRMETICA のオフィシャルサイトを載せておこう。<http://www.bandahermetica.com.ar/>

2007年8月15日